

氏名	古村 健太郎
学位の種類	博士（心理学）
学位記番号	博甲第 7802 号
学位授与年月	平成 28 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	恋愛関係へのコミットメントが精神的健康に与える影響

主査	筑波大学教授	文学博士	松井 豊
副査	筑波大学教授	博士（心理学）	佐藤 有耕
副査	筑波大学准教授	博士（心理学）	湯川 進太郎
副査	筑波大学准教授	博士（心理学）	藤 桂

論文の内容の要旨

（目的）

多くの先行研究において、恋愛関係へのコミットメントは一次元の構成概念として検討されてきたが、近年、コミットメントを複数の次元から捉える研究が増えてきている。また、恋愛関係へのコミットメントが、恋愛関係にある当事者の精神的健康に与える影響についての検討は不十分であった。そこで本論文は、恋愛関係へのコミットメントを接近コミットメントと回避コミットメントに分類する接近・回避コミットメントを採用し、接近・回避コミットメントが恋愛関係にある当事者の精神的健康に与える影響を検討した。この際、接近・回避コミットメントは、恋愛関係における感情経験や恋人間暴力を媒介し、精神的健康に影響すると予測した。加えて、接近コミットメントは、回避コミットメントと恋愛関係における感情経験や恋人間暴力、精神的健康との関連を調整すると予測し、接近・回避コミットメントの交互作用を分析モデルに含めて検討した。

（対象と方法）

大学生や社会人を対象にし、13 の調査を実施した。

（結果）

研究 1（研究 1-1 : $N=133$, 研究 1-2 : $N=136$, 研究 1-3 : $N=55$, 研究 1-5 : $N=175$ ）では、接近・回避コミットメント尺度を作成し、接近コミットメントおよび回避コミットメントを測定する尺度としての妥当性を確認した。また、接近コミットメントは報酬と関連する個人特性や、関係良好性と関連することを明らかにした。一方、回避コミットメントは罰と関連する個人特性や、拒絶および終結コストと関連する関係性要因と関連することを明らかにした。

研究 2 (研究 2-1 : N=203, 研究 2-2 : 恋愛カップル 91 組, 研究 2-3 : N=140) では、横断的研究、ペアデータを用いた研究、縦断的研究によって、接近・回避コミットメントが恋愛関係における感情経験を媒介し、精神的健康と関連するかを検討した。その結果、接近コミットメントは恋愛関係におけるポジティブ感情経験を高めること、および、接近コミットメントが弱い場合にのみ、回避コミットメントがネガティブ感情経験を高めることで精神的健康を低めることが明らかになった。

研究 3 (研究 3-1 : N=292, 研究 3-2 : N=334, 研究 3-3 : N=198) では、恋愛関係も友人関係も測定対象にできる改訂版接近・回避コミットメント尺度を作成し、接近コミットメントおよび回避コミットメントを測定する尺度としての妥当性を確認した。加えて、恋愛関係へのコミットメントと友人関係へのコミットメントについて分析し、接近コミットメントと回避コミットメントのどちらも、恋愛関係が友人関係よりも得点が高いことや、回避コミットメントと全体的コミットメントおよび拒否不安の関連は、恋愛関係が友人関係よりも強いことが明らかになった。

研究 4 (研究 4-1 : N=1654, 研究 4-2 : 恋愛カップル 114 組) では、横断的研究とペアデータを用いた研究によって、接近・回避コミットメントと恋人への心理的暴力、精神的健康の関連を検討した。その結果、接近コミットメントが弱い場合にのみ、回避コミットメントが心理的暴力の加害経験の多さを媒介し、精神的健康を低めることを明らかにした。

(考察)

実証的検討から、接近・回避コミットメントの媒介モデルを提唱した。このモデルは、大きく二つの過程によって構成されている。第一の過程は、接近・回避コミットメントの形成過程である。具体的には、接近コミットメントは、報酬と関連する個人差変数および関係良好性によって強められる。一方、回避コミットメントは、罰と関連する個人特性および終結コストや拒絶と関連する関係性要因によって強められる。第二の過程は、接近・回避コミットメントが精神的健康に影響を及ぼす過程である。具体的には、接近コミットメントが弱い場合にのみ、回避コミットメントがネガティブ感情の高さや恋人への暴力加害の多さを媒介し、精神的健康を低める過程である。最後に、本論文で提唱したモデルの特徴や意義、今後の課題について議論した。

審査の結果の要旨

(批評)

本論文は恋愛関係におけるコミットメントを接近・回避コミットメントに分類し、精神的健康との関連を検討した。この際、恋愛関係へのコミットメントを、接近コミットメントと回避コミットメントに分類し、それらの交互作用を含めて精神的健康との関連を検討した。これらは、本論文のオリジナルな知見であり、恋愛関係へのコミットメントの研究の発展に寄与するものと評価された。

平成 27 年 12 月 25 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士 (心理学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。